

口腔診断学・有病者歯科学

責任者名：岡田 明子

学期：後期

対象学年：4年

授業形式等：講義

◆担当教員

岡田 明子(口腔内科学 教授)

米原 啓之(口腔外科学Ⅱ 教授)

小柳 裕子(歯科麻酔学 准教授)

篠崎 貴弘(口腔内科学 専任講師)

小笹 佳奈(口腔内科学 助教)

◆一般目標 (GIO)

顎口腔領域の疾患を診るために必要な局所のおよび全身的な疾患の基本知識を理解する。

◆到達目標 (SBO s)

- 1) 顎口腔領域と関連のある全身疾患を具体的に述べることができる。
- 2) 顎口腔領域疾患に関連する局所のおよび全身的な疾患の病態, 症状, 診断法を述べることができる。
- 3) 全身疾患の病態の理解に基づいた歯科診療を具体的に説明することができる。

◆評価方法

定期試験 (50%) および平常試験 (50%) で評価する。講義の欠席は定期試験の成績から減点とする。平常試験のフィードバックは講義内の解説により行い, 各講義後にも対面やメールによる質疑応答形式で行う。

◆オフィス・アワー

担当教員	対応時間・場所など	メールアドレス・連絡先	備考
米原 啓之	水曜日 17:00~18:00 口腔外科学第Ⅱ講座教授室	yonehara.yoshiyuki@nihon-u.ac.jp 03-3219-8093	
岡田 明子	水曜日 17:00~18:00 口腔内科学講座研究室	okada.akiko1@nihon-u.ac.jp 03-3219-8099	
小柳 裕子	水曜日 17:00~18:00 歯科麻酔学講座研究室	koyanagi.yuuko@nihon-u.ac.jp 03-3219-8140	
篠崎 貴弘	水曜日 17:00~18:00 口腔内科学講座研究室	shinozaki.takahiro@nihon-u.ac.jp 03-3219-8099	
小笹 佳奈	水曜日 17:00~18:00 口腔内科学講座研究室	ozasa.kana@nihon-u.ac.jp 03-3219-8099	

--	--	--	--

◆授業の方法

教科書 1~5 および講義時に配布するプリントをもとに講義形式で行う。顎口腔領域に関連する全身疾患の病態や診断法を理解し、歯科に関連する医学領域の基礎知識を確実にする。

【実務経験】米原啓之：医師の立場から臨床経験などの話も交えながら、顎口腔領域に関連する全身疾患の理解につながる講義を展開し、これら全身疾患が実際の歯科臨床にどのように関連しているのかを学ぶ場を提供したいと考えております。

【実務経験】岡田明子：口腔診断科およびペインクリニック科での臨床経験などの話も交えながら、本教科で学ぶ内容の理解と実際の歯科臨床との関連性について学んでいただき、将来歯科臨床の現場で活用していただける知識を得ていただきます。

【実務経験】篠崎貴弘：口腔診断科および心療歯科での臨床経験をもとに、顎口腔領域に出現する様々な疾患についてわかりやすく説明したいと思います。

【実務経験】小柳裕子：歯科麻酔医の立場から、本教科で学ぶ内容が歯科臨床現場においてどのように活かされるかについて学ぶ場を提供したいと思います。

【実務経験】小笹佳奈：口腔診断科およびペインクリニック科での臨床経験をもとに、顎口腔領域に関連する全身疾患についてわかりやすく説明したいと思います。

◆教材（教科書、参考図書、プリント等）

種別	図書名	著者名	出版社名	発行年
プリントまたは pdf ファイル（講義で配布）				
教科書 1	全身的偶発症とリスクマネジメントー高齢者歯科診療のストラテジー	大渡凡人	医歯薬出版	2012
教科書 2	歯科麻酔学 第 8 版	福島和昭	医歯薬出版	2019
教科書 3	歯科麻酔・生体管理学 第 2 版	吉田和市	学建書院	2016
教科書 4	口腔内科学 第 2 版	山根源之	永末書店	2020
教科書 5	口腔顔面痛の診断と治療ガイドブック 第 2 版	日本口腔顔面痛学会	医歯薬出版	2019

◆DP・CP

コンピテンス 4：歯科医学および関連領域の知識

コンピテンシー：4-4, 4-5

対応するディプロマ・ポリシー：DP4

◆準備学習(予習・復習)

関連する教科のこれまでに学修した内容を復習しておくこと。教科書の指定のあるものは講義内容を予習し、分からない事項を明確にするとともに理解しておくこと。

◆準備学習時間

予習及び復習はそれぞれ授業時間相当（50分）の学習時間を以って行うこと。

◆全学年を通しての関連教科

炎症と臨床検査（第3学年後期）

口腔外科手術時の患者管理（第4学年前期）

口腔顔面痛学（第6学年前期）

隣接医学Ⅰ 内科学A（第5学年前期）、内科学B（第6学年前期）

◆予定表

回	クラス	月日	時間	学習項目	学修到達目標	担当	コアカリキュラム
1		9.11	6	1) 血液疾患 (1) 貧血 (資料配布) (教2) pp.384 (教4) pp.170~175	・貧血の定義と発症原因について述べるができる。 ・貧血の分類を説明できる。 ・各貧血の臨床検査項目、確定診断方法、臨床症状を説明できる。	岡田 明子	E-2-4) -(10) 口腔・顎顔面領域に症状を表す疾患
2		9.25	6	1) 血液疾患 (2) 出血性素因 (資料配布) (教1) pp.297~299 (教4) pp.183~188	・出血性素因の分類について述べるができる。 ・出血性素因について臨床検査、診断、臨床症状を説明できる。 ・凝固異常について説明できる。	篠崎 貴弘	E-2-4) -(10) 口腔・顎顔面領域に症状を表す疾患
3		10.2	6	1) 血液疾患 (3) 白血病 (資料配布) (教1) pp.300~303 (教4) pp.176~180	・白血病の特徴と必須検査項目、確定診断、臨床症状を述べるができる。	篠崎 貴弘	E-2-4) -(10) 口腔・顎顔面領域に症状を表す疾患
4		10.9	6	2) 薬物依存症・緩和ケア (資料配布) (教2) pp.497~503	・歯科診療に遭遇する薬物依存症について病態や症状を説明できる。 ・薬物依存症および緩和ケア患者に対する歯科診療において注意すべき	小柳 裕子	E-6 医師と連携するために必要な医学的知識

				(教5) pp.239~243	事項を説明できる。		
5		10.16	6	3)腎疾患(透析・ネフローゼ・糖尿病腎症) (資料配布) (教2) pp.372~378 (教3) pp.37~39 (教4) pp.224~233	<ul style="list-style-type: none"> ・腎臓の生理を述べることができる。 ・腎疾患とその原因を挙げることができる。 ・腎不全について説明できる。 ・治療法を理解して説明できる。 	小柳 裕子	E-6 医師と連携するために必要な医学的知識
6		10.23	6	4) 消化器疾患 (資料配布) (教4) pp.209~214	<ul style="list-style-type: none"> ・上部及び下部消化管疾患の病態や症状を説明できる。 ・上部及び下部消化管疾患に対する歯科治療において注意すべき事項を説明できる。 	米原 啓之	E-6 医師と連携するために必要な医学的知識
7		10.30	6	5) 肝胆膵疾患 (資料配布) (教4) pp.215~220	<ul style="list-style-type: none"> ・歯科診療に影響する肝胆膵疾患の病態や症状を説明できる。 ・肝胆膵疾患患者に対する歯科診療において注意すべき事項を説明できる。 	米原 啓之	E-6 医師と連携するために必要な医学的知識
8		11.6	6	6) 脂質代謝異常 (資料配布)	<ul style="list-style-type: none"> ・歯科診療に影響する脂質代謝異常について病態や症状を説明できる。 ・脂質代謝異常患者に対する歯科診療において注意すべき事項を説明できる。 	米原 啓之	E-6 医師と連携するために必要な医学的知識
9		11.13	6	7) 膠原病・唾液腺疾患 (1)シェーグレン症候群・関節リウマチ (資料配布) (教3) pp.57~58 (教4) pp.460~469	<ul style="list-style-type: none"> ・膠原病であるシェーグレン症候群と関節リウマチやIgG4関連疾患の特徴と検査項目、確定診断、臨床症状を述べることができる。 ・シェーグレン症候群と関節リウマチやIgG4関連疾患患者に対する歯科診療において注意すべき事項を説明できる。 	小笹 佳奈	E-2-4) -(10) 口腔・顎顔面領域に症状を表す疾患
10		11.20	6	8)精神・神経疾患 (1)脳血管障害 (資料配布) (教1) pp.190~205 (教4) pp.267~274	<ul style="list-style-type: none"> ・脳血管障害について説明できる。 ・脳血管障害患者に対する歯科診療において注意すべき事項を説明できる。 	岡田 明子	E-2-4) -(9) 神経性疾患

11		11.27	6	8)精神・神経疾患 (2) 高次脳機能障害・認知症 (資料配布) (教1) pp.205~212 (教4) pp.300~303	<ul style="list-style-type: none"> ・高次脳機能障害が説明できる。 ・認知症について説明できる。 ・高次脳機能障害・認知症の歯科治療時の注意点を説明できる。 ・認知症の治療薬と歯科治療の関係を述べることができる。 	岡田 明子	E-2-4) - (9) 神経性疾患
12		12.4	6	8)精神・神経疾患 (3) 運動障害を伴う疾患 てんかん・パーキンソン病・ジストニア・重症筋無力症 (資料配布) (教1) pp.213~220 (教4) pp.519	<ul style="list-style-type: none"> ・四肢，頭頸部の運動の評価ができる。 ・錐体外路症状を呈する疾患の特徴を説明できる。 ・パーキンソン病の病態を説明できる。 ・嚥下障害を呈する病態を説明できる。 ・ジストニア，ジスキネジアの口腔症状を説明できる。 ・てんかんの特徴を説明できる。 ・重症筋無力症の病因を説明できる。 	岡田 明子	E-2-4) - (9) 神経性疾患
13		12.11	6	9)有病者に対する東洋医学的アプローチ (資料配布) (教2) pp.491~495	<ul style="list-style-type: none"> ・東洋医学の内容について説明できる。 ・和漢薬服用患者に対する歯科診療における基礎知識を説明できる。 	篠崎 貴弘	E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患
14		12.18	5	平常試験	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回から第13回までの理解度を確認するため平常試験を行う。 	岡田 明子	
15		1.6	6	平常試験解説 授業アンケート ※1月6日(土)6時限目	<ul style="list-style-type: none"> ・平常試験の解説によりフィードバックを行い，授業内容の理解度を深め，習熟を図る。 	岡田 明子	

